

## 第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2025年5月24日(土) 10:00~12:00  
◇場 所 明日香村内  
◇参加者 【学生】田中、勝田、松原  
【現職教員】藏前(王寺北義務教育学校)、平井(大三輪中学校)  
【万葉文化館】井上、中本、榎戸  
【大学教員】加藤、米田、河野、大西 計12名

- ◇内 容 明日香村内のフィールドワーク  
蘇我入鹿首塚 → 甘樫丘 → 飛鳥坐神社 → 大伴夫人墓 →  
→ 大原神社

あいにくの小雨であったが、中本研究員に上記のコースで案内していただいた。



万葉文化館内の飛鳥池工房遺構

### 1. 蘇我入鹿首塚



首塚

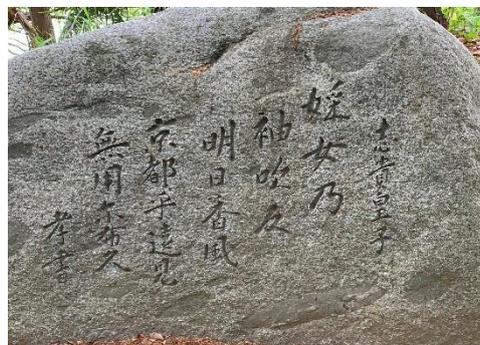
飛鳥寺の境内から西にそびえる五輪塔。乙巳の変の折、飛鳥板蓋宮で蘇我入鹿が中大兄皇子たちによって暗殺された際、その首がこの地まで飛んできたとき、あるいは襲撃された首を供養するためにここに埋葬されたとも伝えられている。五輪塔自体は鎌倉時代または南北朝時代に建てられたものと考えられ、高さ149cmの花崗岩でできている。

### 2. 甘樫丘

采女の 袖吹き返す 明日香風

都を遠み いたづらに吹く 志貴皇子 (巻1-51)

甘樫丘の中腹にある志貴皇子の歌碑は、昭和42年に建立された。揮毫は万葉学者の犬養孝による。当時、ここに8階建てのホテルを建てるという計画が持ち上がり、何とか阻止しようと村が犬養に揮毫を頼んだところ、犬養はしぶしぶ揮毫したという。歌碑が建立された途端、ホテル建設計画がなくなった。万葉歌碑が開発の防波堤になるということで全国各地で歌碑が建てられ、犬養が揮毫した万葉歌碑は全国に141基あるという。万葉歌碑が都市開発から地域を守る役目をしたという事実は、ESDの教材としても価値があると思う。



甘樫丘中腹にある歌碑



甘櫓丘の頂上にて

明日香村が一望でき、大和三山といわれる耳成山、畝傍山、天香久山も眺められる。かつて蘇我蝦夷・入鹿親子が権勢を天下に示すために、丘の麓に居宅を築いたといわれる。入鹿暗殺の報を聞いた父蝦夷は、迫りくる軍勢をここから見て自らの死を悟ったといわれる。

景観を守るために、ここからは万葉文化館の建物は竹林に覆われて見えないようになっている。

### 3. 飛鳥坐神社（あすかにいますじんじゃ）

みもろは 人の守る山 もとへは あしび花さき すゑべは 椿花さく うらぐはし 山そ  
 泣く子守る山 作者不詳（巻 13-3222）

大君は 神にしませば 赤駒の はらばふ田居を 都となしつ 大伴家持（巻 19-4260）

齋串立て 神酒すえ奉る 神主部が うずの玉蔭 見ればともしも 作者不詳（巻 13-3229）

境内に上記三首の歌碑がある。

毎年2月の第一日曜日には奇祭「おんだ祭り」が行われ五穀豊穰・子孫繁栄を祈願する参詣者でにぎわう。「おんだ祭り」は西日本三大奇祭の一つにあげられ、神事の前後には天狗、お多福、翁、牛がささらで参拝者のお尻を叩き周り、奉納神事では田植えの所作、結婚式、夫婦和合の儀式など参詣者の笑いを誘う所作や有名である。



飛鳥坐神社にて

### 4. 大伴夫人墓・大原神社



大原神社にて

藤原鎌足誕生之地とされる大原神社の門前に、「大織冠（たいしょっかん）誕生之旧跡」という石碑が建っている。神社の奥を流れる「中の川」のほとりには「藤原鎌足産湯の井戸」も遺されている。

この地は、現在「小原」と書いて（おおはら）と呼んでいる。神社の近くには、鎌足の母である大伴夫人（おおともぶにん）の墓と言われる円墳がある。

わが里に 大雪降り 大原の 古りにし里に 降らまくは後 天武天皇（巻 2-103）

我が岡の おかみに言ひて 降らしめし 雪のくだけしそこに散りけむ 藤原夫人（巻 2-104）

「わが里」は天武天皇の居所であった飛鳥浄御原宮で、「古（ふ）りにし里」は都に対して田舎を表す表現。「私の住んでいる里には、こんな大雪が降ったぞ。大原のさびれてしまった里に降るのは、おおかたのちのことだろう。」と大原を茶化す天皇に対して、「あなた様のところへ降ったのは、わたしが住んでいます丘の雨竜にたのんで、わたしの慰みに降らした雪の碎片が、そこまで散って行ったのでありましょう。」と歌を返す后（鎌足の娘）とのやり取りが微笑ましく感じる。